

平成 23 年度第 3 回緑区地域福祉計画推進協議会議事要旨

【開 催】

開催日時 平成 23 年 10 月 22 日（土）14：00～16：05

開催場所 緑保健福祉センター 3階 大会議室

出席者 委員 18 名中 16 名出席（うち代理出席 1 名）、手話通訳者 2 名
事務局 5 名（緑保健福祉センター所長、高齢障害支援課 2 人、社協緑区事務所 2 名）、市地域福祉課 2 名

【次 第】

- 1 開会
- 2 委員長挨拶
- 3 議題
 - ◆平成 23 年度緑区地域福祉計画の推進について
- 4 その他
 - ◆次回開催日程
- 5 閉会

【議事及び質疑要旨】

3 議題 平成 23 年度緑区地域福祉計画の推進について

委員長が平成23年度緑区地域福祉計画の推進についての概要を説明した。その後、別添「緑区地域福祉計画推進協議会会報No.29」を基に第2回推進協の経過報告と第3回推進協以降の進め方について説明した。

主な発言内容は以下のとおり。

（委員長）本日進める内容については、別紙「会報 No.29」を参照いただきたい。会報の 2 にある今後の会議の進め方についてだが、今までは協議と報告を一緒に行っていた。しかし、今後はこの協議と報告を分けて進めたいと思っている。皆さんのお手元に A3 サイズのプリントが配られていると思うが、今後の報告部分については、①期日、②場所、③時間、④参加人数、⑤主な活動、⑥新しい内容、⑦次回への課題及び改善点、⑧次回推進協までの行事等の参加依頼について報告願いたい。協議部分については、主に重点目標の取り組みについて協議願いたい。

先ほど、〇〇委員から配布された資料で重点目標進捗状況があるが、これは〇〇地区で進められていることだと思うが、私が考えているのは、例えば、防災マップの作成は〇〇委員がやっているが、1 人にまかせるのではなく、小委員会を設置して、その中で検討し進めていきたいと考えている。自主防

災組織についても、〇〇委員の資料に掲載されているが、これも〇〇委員が1人でまとめてやるのではなく、何人かで集まって小委員会を設置し会を進めていきたい。例えば、交通対策、地域コミュニティづくり、既存施設の活用、災害時における障害者の対応等について、小委員会を設け進めていきたい。

本日の会議では、最初に進捗状況の報告のみをお願いしたいと考えている。質疑があれば質疑の時間を設け、報告と質疑を分けて進めていきたい。小委員会をつくりたいという要望があれば、後半に時間を設けたい。それでは、土気、誉田、おゆみ野、椎名の順番で報告をお願いしたい。

(土気地区委員A) 先週の土・日に第17回ふれあい福祉フェスティバルが約1,000人の来場者を迎え開催された。土曜日は、ブラスバンドを除いて全て出演いただいた。日曜日は、障害者の方及び土気では有名な土気シビックウインドオーケストラ等の演奏を楽しく聞くことができた。

(委員長) いつ開催されたのか。

(土気地区委員A) 10月の15日(土)・16日(日)である。

(委員長) 何人くらい参加されたのか。

(土気地区委員A) 観客、参加者合わせて2日間で1,000人くらいであった。

(土気地区委員A) 次にすこやかネットみどりについての報告だが、無事9月に有償運送「79条」登録の更新が完了した。9月26日から3年間新しい気持ちで頑張りたい。それと、8月に日本テレビで24時間テレビが放映されていたが、そのチャリティ番組から福祉車両の寄贈が1台内定した。12月から1月には、その車両がいただける予定である。今までの車両はガソリンをすごく使用してしまっていたが、今度の車両は燃費がよく倍は走行できるようである。私ども団体としてはとても助かる。

(土気地区委員B) 社協土気地区部会の活動を報告させていただく。現在、ふれあい・いきいきサロンは17箇所で開催しているが、15番目の「はなみずきサロン」は助成金申請はしておらず、会費を徴収して独自で開催している。16番目「サロンサンヴェール」と17番目の「なかの台サロン」は、今年度から開始したサロンであり、来年度から助成対象とする予定である。もう1箇所増える予定である。

次にふれあい・子育てサロンであるが、月2回あすみが丘プラザ和室にて開催している。4月から有料となったので使用料を払って借用している。毎年4月と10月に野外活動を開催しており、花見やどんぐり拾いを行っており、毎回15組から20組が参加し、ボランティア数は約10名である。また、ふれあい体験教室も越智中学校、土気中学校、土気南中学校で行っているが、今年の土気南中学校で予定されていた体験学習は中止となった。次にふれあい・散歩クラブであるが、4箇所で開催している。

次にふれあい食事サービスであるが、土気地区と越智地区で月1回ずつ開催している。最後に地域住民を対象としたウォークラリーであるが、11月23日に開催を予定しており、現在、町内自治会を經由して回覧をお知らせして

いるところである。

(委員長) 子育てサロンにお金がかかるとのことだが、幾らかかっているのか。

(土気地区委員B) 使用料が4月からかかっており、時間帯の区分けが9時から11時、11時から13時となっており、本サロンは10時から12時に開催しているため、2コマの時間帯を借りなければならず、1コマあたり490円のため、2コマで980円支払っている。これを月2回、年24回開催しているため、23,520円と結構負担を強いられている。

(委員長) ○○委員何か報告はあるか。

(土気地区委員C) 現在、住民の実態調査をしているところであり私からの報告は特にない。

(委員長) 緊急時のための防災ネットワークづくりなどは、他の地域と小委員会を立ち上げてやっていただきたいと考えている。

それでは、土気地区が終わったので誉田地区の報告をお願いしたい。

(誉田地区委員A) 我々は社会福祉協議会地区部会の活動と区地域福祉計画の活動を別々に考えた行動である。今日初めて、社会福祉協議会誉田地区部会としてもサロンや子育て、ふれあい食事サービスなどを載せているのでご覧いただきたい。それとは別に○○委員が進めている防災関係と私が進めている陶芸教室があり、この教室は8月に長寿会と子ども会合わせて35名の参加で作品をつかった。作品が集まらないと焼く費用がかかり過ぎてしまうため、現在、ことぶき大学にも声かけをしているところである。皆様も一度見てみたい、参加したいという方がいらしたら是非ご参加いただきたい。

(委員長) 次はおゆみ野地区の報告をお願いしたい。

(おゆみ野地区委員A) この事業は、緑区の助成事業である「緑区まちそだて事業」の一環として行っており、まだ途中である。3回に分けて実施する予定であり、10月9日(日)に第1回目の「千葉市出前講座」が終了した。第2回目として11月24日(木)に「地域の防災施設等の見学会」を実施する予定である。前回の3月11日に開催した見学会で問題になった場所が、その後どうなったのか等を見学させていただきたいと区地域振興課くらし安心室をお願いした。第3回目は、来年の1月15日(日)に「まちづくりフォーラム」と題して地域活動団体が集まる会の開催を予定している。その際に、私どもは小さな団体なので小さなまとめしかできないが、今までの防災に対する取り組みをまとめたもので皆さんと話し合いをしたいと考えている。また基調講演として、「被災地の子どもの支援」という形で国際NGOセーブ・ザ・チルドレンをお願いする予定である。まだ確定ではなく、これからお願いするところである。もう1つ、不登校に関する講演会「心配しないで不登校といえるために…」を10月30日(日)午後1時30分から鎌取コミュニティセンターで開催するので、是非ご参加いただきたい。

(委員長) 補助金は幾らいただいているのか。

(おゆみ野地区委員A) 私たちの団体は5万円をいただいている。

(委員長) この緑区まちそだて事業とは、上限15万円の補助金を受けられる緑区独自の事業であり、今発表いただいた団体は5万円の補助金を受けているとのこ

とである。

(おゆみ野地区委員A) 時間がある方は是非ご参加いただきたい。

(委員長) 次は〇〇委員にお願いしたい。

(おゆみ野地区委員B) まず、高齢者福祉委員会では、ふれあい・いきいきサロンを年9回開催しており、7月14日と9月8日、10月6日に開催した。7月は、108名の参加があり、9月は102名の参加があった。9月の開催時は、鎌取コミュニティセンターとの共催で火災発生を想定した避難訓練を実施した。

次にこども家庭福祉委員会では、ふれあい・子育てサロンを年6回開催しており、9月27日の開催時は46名の参加があった。今月の25日は臨床心理士の花澤桂子先生をお迎えし講演会を予定しており、今年度の目標は記載のとおりである。

次に障がい者福祉委員会では、夏に障がいを持つ子ども達とその家族を招いての流しそうめんを実施し、参加者は総勢102名であった。1月にももちつき大会の実施を予定しており、その他、茶話会形式の交流会を2月頃予定している。目標については記載のとおりである。

次にボランティア福祉委員会では、7月に保健福祉センター保健師によるストレッチ体操を開催し、社協スタッフ21名、登録ボランティア14名の計35名が参加した。また、ぽつぽつクリーン隊として年4回各委員の自宅から公園などの集合場所まで掃除活動を実施している。その他各委員会の活動にもボランティア福祉委員会として協力している。目標については記載のとおりである。

最後に広報福祉委員会では、広報紙「ゆいゆいおゆみ野」の発行を行っている。現在11月号発行のため、各事業の取材、写真撮影を4人の委員で行っている。

(委員長) それでは、次に〇〇委員報告願いたい。

(椎名地区委員A) 詳しくは資料をお読みいただくとして要点だけ申し上げたい。椎名地区で今一番問題になっているのは活動拠点がなくなったということである。既存施設の有効活用を求めて現在活動しているが、進捗状況としては、平成22年12月10日に千葉市社会福祉協議会との打ち合わせがあり、社協の第1次地域福祉活動基本計画及び実施計画に明記された「小地域福祉活動の活性化」及び「活動拠点確保の支援」について問い合わせをしたが、未だ返答がない。そのため、平成23年8月10日に江戸時代の目安箱にあたる市長への手紙を発信させていただいた。市長のトップダウンで縦割り行政を何とか是正できないものかと期待した。その第1回目の返答が8月25日にあり、①公民館は手狭のため事務局を置く部屋がない、②市財政事情により増改築の予算がない、③公民館の組織上、規定上要望には応えられない、④公民館は、教育委員会も含む市全体の予算で運営されている、⑤公民館は、今後も地域団体の会合や催しにも利用してよい、⑥使い勝手に対する問題は、市民自治推進部で調整する、ということであった。③については、これこそ市長のトップダウンにより是正していただきたい点であった。よかった点は、④・⑤・⑥

である。④については、教育委員会の予算で行われていると盛んに言われていたが、これは違っており市全体の予算で運営されていることが分かった。⑤は、当然のことだが、これまで通り地域団体の催しや会合に使用してよいとのことである。⑥については、相談する部署がはっきりした。一地方団体の活動ではなかなか難しい面もあるので、是非この協議会の皆さんの後押しを得たいと思い、活動拠点の確保に尽力しているところである。

(委員長) ○○委員からの報告はあるか。

(障害団体委員A) 精神障害者の地区の活動をしているのは「千南会」という家族会しかない状況である。この千南会というのは、千葉市精神障害者南地域家族会の略称である。現在、社会資源が全く不足しているので、私たちは一つひとつ基本的なところから社会資源を整理しているところである。まずは、その中心となる 24 時間の生活支援センターをつくっていきたいと考えており、今まで千葉市に対しても強く提案してきた。毎月第 3 土曜日に家族会の例会を行っているが、我々も高齢化してきており、このような話が進みづらい状況になっている。現在、NPO 法人「たけの子工房」の家族会が千南会であるが、高齢化しているので何とか市とかセンターの協力や支援をいただきたいと考えている。私たちが目指しているのは、配布した資料にあるように緑区というコミュニティの中に 100 人に 1 人という精神障害者、今はうつ病も含まれているので 100 人に 2 人という患者がいる。緑区には実際多くの方がいらっしゃる。私ども家族会は、そういった精神障害者がどうやったら自立できるかというのを考えている。この資料は、精神保健福祉士の神尾美樹氏がある市に支援センターを中心とした作業所（神尾氏は 3 つ設立）、グループホーム、保健所、病院との連携を表したものである。千葉市では、この作業所は緑区に 1 箇所だけしかなく、グループホームは全くない。精神というのは病気の重さで広がりがある。症状が軽い方は近くのアパートに通い作業所に通うことができるが、重い方の場合はとても一般のアパートに住むことができないため、グループホームの設立が望まれている。

(委員長) 24 時間生活相談支援センターを立ち上げるとのことだが、これは緑区として考えているのか。

(障害団体委員A) これは、区に 1 つ設置として考えている。前県知事の堂本氏が在任中に中核支援センターを各拠点に設置しているが、千葉市には設置されていない。100 人に 2 人という患者がいるので、最低緑区に 1 箇所は必要だと感じている。

(委員長) 市全体としては別として、緑区にこの支援センターを設置するとしたら、どのような手順で進めていこうと考えているのか。

(障害団体委員A) これまで、家族会が若い時には、箱モノは家族会が工面し、運営については千葉市の予算をいただき、家族会や専門家、ここではソーシャルワーカーを雇って運営していた。ところが、箱モノを探すことさえ高齢化してできない状況である。実は、NPO 法人たけのこ工房は私が立ち上げているので、そのプロセスを追えば、支援センターができないことはないが、なかなか家族の方の支援が少なくなってきた。

- (委員長) この推進協として、24 時間生活支援センターの設置に向けて支援していくとしたら、どのように取り組んでいったらよいかの具体的な手順を次回の会議までに提案していただけないだろうか。それぞれ、支援できるところと支援できないところがあると思うので。
- (障害者団体委員A) こちらも是非お願いしたい。
- (委員長) お互いに両方で進めていきたいと考えている。
次に〇〇委員の報告をお願いしたい。
- (障害者団体委員B) 聴覚障害者の参加者は 11 名いた。別に 5 名ぐらい。私は、ビニールで合羽、ハイゼックス米をつくった。
- (委員長) 申し訳ないが、報告書を読んでいただきたい。
- (障害者団体委員B) 避難訓練の件。職員が筆談でやり取りしてくれたが、体育館での他の関係者が視覚障害者、肢体不自由、聴覚障害者の対応の理解ができていない。障害者の特性を理解していただき、介助も少し手伝ってほしい。民生委員、町内会の方も交流をしながら自然と手伝っていただけたらありがたい。また、屋外のテントの一部に障害者コーナーのようなものをつくり、車椅子コーナー、ガイドヘルパー（トイレなどの誘導）、手話などミニ体験講演ができると一般市民にも理解できるし、協力者も増えると思う。障害者というと、一般の人は身構えてしまい、どのようにすればよいか分からないので、第一歩を試みてもらうためにもよいと思う。
- (委員長) 災害時における障害者（難聴）の協力体制の構築については、今後小委員会を設置しようと考えている。
- (障害者団体委員B) 障害者（難聴）だけか。
- (委員長) 障害者（難聴）だけである。
- (障害者団体委員B) それは緑区で障害者（難聴）の小委員会をつくるのか。
- (委員長) そうである。
- (障害者団体委員B) 私は緑区の障害者（難聴）の方々は知らない。
- (委員長) 障害者（難聴）を集めて小委員会を行うのではなく、この中の委員が小委員会に属するのである。
- (障害者団体委員B) 障害者（難聴）のことだけ考えて聴覚障害者のことは考えていただけないのか。
- (委員長) 聴覚障害者のことは、今後小委員会で検討していこうと思う。
- (障害者団体委員A) 精神障害者についても弱者ということで、今回の東日本大震災において大きな問題が出ている。県においては、私どもにどのような対応策を講じたらよいか問うてきているが、千葉市はまだない。これは大事な問題だから、具体的に障害者全体的にどのような支援、対策が必要なのかを緑区としてまとめていく必要があるのではないかと思う。
- (委員長) 今回は聴覚障害者という視点でまとめてみようと考えている。他のところを無視しているのではなく、今後、精神障害者が災害にあった時はどうしたらよいかというのは、また別に小委員会を立ち上げて検討しようと考えている。
- (障害者団体委員A) 千葉市としてまとめてもらいたいと思っている。

- (委員長) 一応、この推進協としてまとめて市に発信していきたいと考えている。
- (事務局) 今回この大震災があったということで、市でも要支援者への対策ということで動いている。障害企画課及び防災対策課が中心となり対策を練っているところである。なかなか諸問題があり難しい部分もあるが、進めているということは聞いているのでよろしくお願ひしたい。
- (委員長) お手元に大きなプリントで平成 23 年度地区部会事業予定一覧が配布されていると思うが、この中のこの部分をやりましたというのが報告されている。地区ごとに目を通していただき、何か抜けているところがあれば追加で報告願ひたい。
- (菅田地区委員A) 菅田地区部会の報告資料の鎌取コミュニティまつりの参加部分であるが、土気地区ではなく、菅田地区に訂正していただきたい。全ての地区部会で同じように各委員会ごとの活動をしているが、この事業内容の出し方として障害者委員会や広報委員会も全て載せるのかを教えていただきたい。そうすればそれなりの載せ方があると思う。
- (事務局) できるだけ全ての事業を把握したいので事業内容全ての報告をお願いしたい。
- (委員長) 抜けていれば補足していただき、徐々に改善していければと思う。
それでは、これから協議項目に入っていきたい。まず、〇〇委員より児童・生徒と高齢者との交流促進小委員会の報告をお願いしたい。
- (菅田地区委員B) 児童・生徒と高齢者との交流促進について小委員会を設け、今までに 3 回ほど検討した。「手紙から始まる絆の復活」と題して、児童・生徒と施設に入所されている高齢者が手紙や絵手紙、短歌等で交流を図っていこうという事業である。目的としては、①交流を通して共に生きることの大切さやすばらしさを理解し合う、②福祉のあり方を通して、共に“きずな”の大切さを理解し合う、である。現在、小学校は小谷小と金沢小を選定し、中学校は土気中、菅田中、泉谷中を選定し打診しているところである。また高齢者施設は、比較的自立している方が入所している緑区内軽費老人ホーム 5 カ所を選定した。
学校への対応の手順としては、①小・中学校に交流促進に対してのお願い、②個人ポスターの作成（小学校：希望者、中学校：ボランティア委員会等）としており、施設への対応の手順としては、①個人ポスターを掲示して応募者を募る、②交流希望者の名簿の作成である。
学校と施設との組み合わせ案としては、①小谷小と（軽費）ほんだくらぶ、②金沢小と（軽費）グリーンユウワ、③土気中と（軽費）千寿苑、④菅田中と（軽費）菅田園、⑤泉谷中と（軽費）けやき園である。
その後、施設及び学校責任者との交流会の実施（小委員会において検討中）、推進の状況について情報交換会の実施（各学校及び施設）を予定している。小委員会メンバーについては、岡本委員長と施設を代表して〇〇委員と私と社協緑区事務所と高齢障害支援課である。
- (委員長) 児童・生徒高齢者との交流促進として以上のような形で進めていきたいと提案があったが、何か意見や助言はいかがか。

小学校・中学校については、今後直接出向いてお願いに伺い事業を開始したいと考えている。各学校の選定についてだが、両小学校は市社会福祉協議会のボランティア指定校であり、また、土気中は昨年度福祉教育研究大会協力校、誉田中はボランティア委員会が設置、泉谷中は特別支援学級生徒がボランティアを推進しているということを経験とした。このような形で小委員会を設置し話を進めてきた。

(土気地区委員A) 高齢者施設の参加者の方は希望者なのか。

(誉田地区委員B) 児童・生徒が作成したポスターを施設に掲示し希望者を募ろうと考えている。

(土気地区委員A) 絵手紙とかを含めているのか。

(誉田地区委員B) 含めてである。

(委員長) 他に何かあるか。市内でこのような事業をやっているところはないのか。

(事務局) こういった形での事業は特には聞いていない。

(委員長) このような形で重点目標の1つとして進めていこうと考えている。

次の協議事項は、地域包括支援センターとしての地域の見守りネットワークづくりであるが、これについては〇〇委員にお願いしたい。

(誉田地区委員B) 地域包括支援センターとしての現状を報告する。緑区内には2箇所の地域包括支援センターがあり、千葉市あんしんケアセンター裕和園は、誉田・鎌取・おゆみ野・椎名地区を担当している。とても地区が広く人口が多いため、なかなか全体的に同じような活動や関わりができていないが、今年度については、出張相談会を利用し古市場地区とのネットワークづくりをしている。黄色のチラシを回覧版に入れ、その地区にポスティングを行っている。4箇所の集会所を回っており、民生委員、町内自治会長との連携や信頼関係ができ順調に進行している。町内で心配な方を民生委員や町内自治会長、住民の方が誘ってくださっており、毎回15人くらいの方が参加されている。本来であれば、全ての地区でこのような活動をしていきたいところなのだが、とても対象区域が広いので全てとはいかないのが現状である。また、広報紙「あんしんケアネットゆうわ」を発行している。

次に千葉市あんしんケアセンター千寿苑であるが、土気・平川地区を担当している。こちらは、数年前から見守りネットワーク土気を立ち上げて、民生委員、いきいきセンター（土気、越智）、あんしんケア千寿苑で構成されており、今年の8月から社協緑区事務所、土気地区部会が加わり月1回の会合を開催し情報交換を実施している。今後1人暮らしの見守りにボランティアの活用を検討しているということである。

2つ目に会員制の地域の支援組織としては、①助け合いの会（大椎台団地）、②おおかぶ会（越智はなみずき団地）がある。

3つ目にこれからの検討課題の提案として、地域の見守り、緊急時の支援、地域のコミュニケーションづくり等に、この推進協に参加されている方は皆さん地域に貢献されている代表の方々なので、それぞれ地区ごとに分けグループワークをしてみたいか考えた。地域により特徴もあり、現状も違い、その中での役割分担等も地域により変わってくると思う。

最後に千葉市あんしんケアセンターの今後の動向についてだが、来年度、千葉市はあんしんケアセンターの増設を検討中とのことであるが、4月にはできず、時期は不明とのことである。増設されると地区割りも変更となり、緑区は、土気地区、おゆみ野・椎名・鎌取地区、誉田地区と3つになるかもしれないという情報もある。地区にはそれぞれ特徴があるので、なかなか同じようにはいかないと思うが、災害時のネットワークや独居高齢者の見守り、高齢者の見守り等を、この推進協で検討していければと考えている。

(委員長) 地域の見守りネットワークづくりを各地区で進めていきたいということである。そのためには、どのように進めていけばよいのかを小委員会を設置して検討していきたいという提案であった。

続いて、〇〇委員にお願いしたい。

(おゆみ野地区委員B) 先ほど小委員会を立ち上げてどうのとおっしゃっていたが、この計画が始まって半年経った、何故、今頃なのかという感じがする。

この3つの重点目標を6月25日に提出している。その時に、この地域福祉計画のどの部分を、どのように進めて、どこから選んでいるのかをしっかりと説明した。その前提にたつて6月25日に重点目標3つを設定し、推進していくとした。あくまで私は緑区地域福祉計画推進協議会の委員であり、委員の1人として出席し、推進していく項目を選んだ。その中で取り組むことは何かというと、私は地区連協の会長であり、おゆみ野地区6,500世帯の代表である。その組織を代表して、この重点目標を推進していきたいということで、その結果の中間報告を私がさせていただく。

お手元の資料をご覧いただきたい。まず、自治会の結成と加入促進であるが、①自治会未結成及び自治会未加入地域の分布図の作成(対象地区17箇所)と現地調査と状況分析を実施。これはいわゆるデータ収集と分析である。実際にどのような活動をしたのかというと、②1自治会未加入集合住宅アパート3戸80世帯に対して加入促進チラシ個別、面談配布の実施。これはピンポンを押し、必ず人と顔を合わせて渡した。次に③住宅管理組合、防災会は結成済みであるが、自治会未結成地区へのアプローチの実施。これは、いろいろな人の手を借りて行ったが、評価は未定である。④北部地域2箇所、南部地域2箇所、UR都市機構関連住宅1箇所への積極的なアプローチの実施。成果予測としては、⑤南部地域大手デベロッパー開発戸建住宅団地、年内に1自治会結成、加入予定である。

次に自主防災・自主防犯組織の充実、推進の自主防災組織であるが、まずデータの収集と分析は①自治会で防災会の未結成16地区の現状把握(ヒアリング)、②自主防災会結成上の問題点の洗い出し、③対象地区に対し自主防災組織への助成制度の説明、④防災資材倉庫の確保、方法について検討し、複数設置については緑区連協を通じて市連協要望事項として提出、⑤緑区連協主宰防災講習会「災害時に町内自治会が果たす役割」、おゆみ野地区47町内自治会全自治会が参加し今年28日に開催、⑥おゆみ野地区20自治会が防災訓練を実施。今年の特徴は合同で開催する自治会が増えてきた。⑦2つ

の小学校区で「学校連絡会」を開催。これは、本日行われており、学校単位で地域住民と連絡会を設けようということである。ゆくゆくは行政にも入ってもらい、避難所運営委員会の前哨戦的な取り組みをしていきたいと考えている。

次に自主防犯組織（防犯パトロール隊を含む）の育成、強化であるが、①地域防犯体制の基礎固めと担い手についての検討を千葉南署生活安全課とミーティングを実施した。②千葉南署管内防犯協会任命の「防犯指導員」をおゆみ野地区で10名任命した。③青色防犯パトロール講習会の実施。これは2日に分けて約30名が参加した。④地区防犯キャンペーンへ参加ということで防犯指導員、青色パトロール隊全員に呼びかけたが7割程度の参加に止まった。⑤既存防犯パトロール隊の再確認と活性化、⑥防犯パトロール隊、防犯グッズの適正配布を実施した。調整課題としては、⑦千葉南署管内防犯協会登録の防犯パトロール隊と千葉市登録の防犯パトロールとの2系列あるが、これを1系列としていかに連携協力体制を築くかが今後の検討課題である。

最後に災害時要援護者支援体制の充実の取り組みについては、①9月おゆみ野地区連協会長会で支援者カードの作成と個人情報保護法について協議検討した。②11月おゆみ野地区連協会長会で千葉市防災対策課長より要援護者支援体制についての講演の協力を依頼した。③自治会主催防災訓練に際し、高齢者の参加を促す懇親会等を併せて行うよう要請した。近所の顔見知り、避難誘導、炊き出し訓練の付加価値を伴う訓練を実施していただくことである。④命のライセンス（メディカル）カード、帰宅支援サポーター等の災害時活用携帯カードの作成について、緑区連協を通じて市連協要望事項として提出した。⑤おゆみ野地区連協全自治会、全世帯に「無事ですタオル」配布を検討しており、実施予定である。⑥小学校単位の災害備蓄品の整備と避難所対策を行政へ要請した。今後の期待値効果としては、⑦地域住民のくらしの安心、安全に向け、実際的な手立てを1つでも2つでも具体的に講ずることにより、災害時助け合いの輪が広がるような大きな流れを作っていければと期待している。特に11月の会長会で最終決定するが、6,555世帯全戸に「この無事ですタオル」を配布する予定である。これは全額補助ではなく、一部補助として1本あたり約50円から70円の補助を考えており、約50万円の費用がかかる予定である。その財源捻出については、今年度おゆみ野地区連協では夏祭りを中止したので、その費用を一部充てようと考えており、その他の財源を何とか捻出したいと考えている。これについては、先般行われた区連協理事会で、ある地区連の会長がおっしゃっていたが、千葉県共同募金会千葉市支会への支出を少し考え直していきたいとの勇氣ある発言に私ども感銘を受けた。私どもも共同募金会への支出及びおゆみ野地区約6,500世帯の住民が拠出している助成金を受け取っている団体に有効活用されているのかを精査して、その団体の活動支援が地区連協自体の活動の資金不足をきたしている現在であるが、本当にそれでよいのかを見直していく

1つのきっかけにしていきたい。この「無事ですタオル」の配布を契機として真剣に地区連協内部で検討していきたいと考えている。

(委員長) おゆみ野地区会長会は何名なのか。

(おゆみ野地区委員B) 47名であり、47町内自治会である。

(委員長) 47名となるとかなりの人数だが、どこで会合を設けているのか。

(おゆみ野地区委員B) 鎌取コミュニティセンターの講習室と会議室の2部屋をぶち抜いて使用している。

(委員長) 公民館でできる規模ではないか。

(おゆみ野地区委員B) できる規模ではない。これ以上増えるようであれば、多目的ホールでやるしなくなる。

(権名地区委員B) 3-II-A 自主防災組織の⑥でおゆみ野地区20自治会が防災訓練を実施の報告の際に、他の町内自治会を行われたとの報告があったが。

(おゆみ野地区委員B) これから実施するところである。おゆみ野の中心部である泉谷小学校をベースにして近隣の自治会、戸数でいえば相当数であるが、その3自治会が合同で開催するということがまとまった。当初4箇所であったが、1箇所計画済みであったため、3自治会で開催となる予定である。もう1箇所、2自治会で共同実施するところがある。これが今年の特徴である。

(権名地区委員B) 1つの自治会でやればやりやすいのだとは思いますが、複数の自治会でやる際のメリットは何なのか。

(おゆみ野地区委員B) 地域の連帯、住民の啓蒙である。一緒に行くことにより、自分たちも頑張らなければいけないという意識付けとそこに消防署等もいると違ってくる。

(土気地区委員A) 3-III-②で千葉市防災対策課長より講話をされるとあるが、千葉市としてこの取り組みに対して動いているということか。

(おゆみ野地区委員B) 平成23年度版の災害時地域支えあい事業の実施の手引というものがあり、千葉市の防災対策課が作成している。これをもう少し簡略化し、漫画化にしていただき、住民に分かりやすいようにアレンジしてもらい話してもらおうと当該課と話し合いマニュアルづくりを始めている。千葉市で一番最初におゆみ野地区にきていただくことになっている。

(委員長) 3-II-A-③については、今までも防災組織へ市から助成金が出ているが、そのことであるか。

(おゆみ野地区委員B) 防災グッズとお金が出る。1団体10万円の助成があり、それに1世帯あたり400円が加算される。

(委員長) 3-II-A-⑦の学校地域連絡会についてももう少し詳しく伺いたい。

(おゆみ野地区委員B) 本日開催されているので、まだ報告が挙がってきていないが、実施する前の報告では、学校と自治会との関係を緊密にしていこうじゃないかということである。地域住民にも学校の子供たちの動静をよく知ってもらいたい。ゆくゆくは災害時避難訓練の基になる学校であるが、とても学校の先生だけでは運営できないし、地域と学校と行政の三者一体となって、これを運営していく方向になる。基本的な考えは本年度中に千葉市役所本庁がまとめるということである。

- (委員長) 地域の住民に対して学校が開催するとなれば、これは学校から手紙を出すのか。
- (おゆみ野地区委員B) 学校と青少年育成委員会の両団体の連名で出す予定である。
- (委員長) 今後も動きがあれば随時報告していただきたい。
- 次に 3-III-①の支援者カードの作成とあるが、これはできるか。
- (おゆみ野地区委員B) このカードは非常に細かく精緻なものである。この細かいカードの作成をいきなりやろう、といっても無理な話である。だが、住所と氏名と生年月日くらいから始めようと考えている。あえていうのであれば、健康か障害を持っているのかということが分かればよい。これをまとめていく過程で本人の同意を得ていくうえで、もう少し詳しい資料がまとめられることが分かり次第進めていきたい。
- (委員長) 44 地区連会長が中心となってやっていくということか。
- (おゆみ野地区委員B) そうである。そのための話を聞いていかないといけないし、その気になってないと。9月の会長会で支援者カードについて検討したが、個人情報保護法の問題もあり、引き続き検討することになっている。
- (委員長) 最後に 3-III-⑤だが、「無事ですタオル」が写真に掲載されているが、これは災害時だけにかけるだけではないと思うが、どういう時にかけてもらおうと考えているのか。
- (おゆみ野地区委員B) 私の構想では、初めは 65 歳以上の高齢者だけに配ったらよいのではないかという意見もあったが、高齢者が特定されてしまうとといった様々な問題が生じたため、一律に全ての世帯に配布しようということになった。自治会がいざという時に町内の救護活動をする際の無駄を省く。11月6日の会長会で決定されれば、すぐにでも作成する。この写真に掲載されている高砂地区でつくったのは1本200円である。6,000枚つくるともう少し安くなるのではないかと思い、現在、折衝中である。
- (委員長) 災害時の訓練の際は必ず全戸で掲示するということか。
- (おゆみ野地区委員B) 災害訓練時に「無事ですタオル」を使用するということである。いろいろな使い道があると思うので、今後検討していきたい。
- (委員長) 現在は、おゆみ野地区で進められているが、他の地区にも広げていただきたい。できれば、災害時の要援護者支援体制づくりはどうあるべきなのかを、例えばおゆみ野地区をベースとして緑区推進協としてまとめられればよいと思っている。
- (おゆみ野地区委員B) おっしゃるとおりである。ここに行きつくまでにも地区連の役員12名、苦勞と壁にあたりながら進めてきた。他の地区で進めていく際の少しでも参考にさせていただければと考えている。
- (委員長) 災害マップをつくる際の参考にもなるのではないかと思う。
- (おゆみ野地区委員B) 行政に質問だが、この千葉市地震ハザードマップの新しいものはできているのか。おゆみ野も地震の巣のような感じがするのでしっかり作ってほしい。9月14日9時58分にドーンという突き上げ地震があったことを皆さんは存じているか。その地震の後に、テレビのテロップ等何も出てこなかった。そ

うしたところ、5分後のテレビに「震度2 千葉市緑区」と出ただけだった。ハザードマップが何故必要かというところ、この地震がおゆみ野直下型の可能性もあるからである。緑区が災害に安心な街と思っていたら大きな間違いである。もう少し精査したものを作っていたきたい。

(委員長) ○○委員から小委員会を立ち上げるのが遅いのではないかとのご意見もいただいたが、今後1人で進めるのは難しいという課題を持っている方は私に申し入れいただき、何人かで知恵を出し合い具体的な目標を設定して進めていくということを1つの方法として考えていきたい。

(おゆみ野地区委員B) 遅すぎたというのを強調したのではなく、走っているところもあるので、それはそれで進めさせていただき、それ以外の問題についていろいろなところに首を突っ込んでよければ、それだけの協力はさせていただく。

(委員長) 特に災害時要援護者の支援というもののプロセスは是非教えていただきたい。

(おゆみ野地区委員B) もちろん、全ての情報はオープンにしていく。

(委員長) もう1つ、学校地域連絡会というのも新しい発想なので、これについての情報も教えていただきたい。

(おゆみ野地区委員B) 情報として、この学校連絡会の基になった発想は、コミュニティスクールとまではいかないが、地域住民と学校との交わり、結びつきを考えていきたいということである。

(委員長) 1つの重点目標を進めるにあたっては、地区にまかせるということもそうだが、地区を1つの核として広げていくという小委員会を設置し、その中で提案し新しい方向を出していくという方向で進めていきたい。

以上のような形で今後も報告と協議を分けて進めていきたいと考えている。11月の福祉カレンダーを見ていただきたいのだが、11月6日(日)手話祭りが10時から16時千葉市ハーモニープラザにて開催されるようなので書き足していただきたい。

4 その他

- ・特になし

5 次回開催について

◆第4回緑区地域福祉計画推進協議会

12月10日(土) 午後2時 緑保健福祉センター 2階 大会議室

委員長が閉会を宣し、第3回緑区地域福祉計画推進協議会は散会。